

令和7年度 人と防災未来センター災害対策専門研修「エキスパート特設演習」 (避難所を中心に被災者支援を考える)

1 趣旨

近年は、令和6年12月に避難生活における良好な生活環境の確保に向けた取組指針が改定されたほか、令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応検討ワーキンググループの令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について【概要】¹⁾において、避難所の開設時からの対応や、在宅・車中泊避難者等への対応が明記される等、行政においては、避難所関連の対応の再検討が求められています。

そこで今年度は、避難により守った命をつなぐために必要な行政の被災者支援について、避難所を中心に学び、考える研修を開催します。

- 1) 内閣府防災情報のページ：令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応検討ワーキンググループの「令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について【概要】」
https://www.bousai.go.jp/jishin/noto/taisaku_wg_02/index.html

2 研修内容

① 講義：

令和6年能登半島地震の教訓や指針改定を踏まえ、避難により守った命をつなぐ支援の本質を学びます。これにより、経験則やスフィア基準の基本指標のみを用いたような画一的な数値目標だけでは届かない、被災者一人ひとりの「尊厳」を守ることを最優先する視点を提示します。加えて、困難な状況で「できる・できない」を判断するのではなく、行政がなすべき支援を目指す「プロセス思考」の重要性を解説します。特に、自ら声を上げられない被災者の困難を汲み取るための「想像力」を、行政職員がどのように養うべきかを考えます。

② ワークショップ：

講義で学んだ「尊厳を守るプロセス思考」を、具体的な事例を用いて実践的に学びます。これは、災害発生直後から仮設住宅が建設されるまでの時期を想定しています。まず、在宅・車中泊避難者や、声として上がってこない多様なニーズを持つ被災者に対し、限られた資源の中で何を優先すべきか、グループで討議し意思決定のプロセスを体験します。次に、支援の重複や漏れを防ぎ連携を促す「クラスターアプローチ」の考え方を参考に、関係機関との連携方法を検討します。最後に、行政職員として自身と組織の行動計画となる「マイタイムライン」の策定にも触れることで、想像力を具体的な行動に結びめます。

3 カリキュラム（予定）

日 時：令和8年1月20日(火)10時～17時

場 所：人と防災未来センター東館6階会議室

講 師：原田 奈穂子 氏

岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学研究学域 看護科学分野 教授

岡山大学 医学部保健学科 看護学専攻 基礎看護学領域 兼任担当教授

10：00-10：10	開講式
10：10-10：20	オリエンテーション
10：20-12：00	講義
12：00-13：00	昼休み
13：00-15：00	ワークショップ
15：00-15：10	休憩
15：10-16：40	解説・まとめ
16：40-16：50	レポートタイム
16：50-17：00	閉校式